





―明治の記憶を、次の10年へ―

軍馬の郷六原資料館　開館10周年記念祭

軍馬の郷六原資料館で10月31日、開館10周年記念イベントが開催されました。地域住民のほか、町内外から多くの来場者が訪れ、馬とのふれあい体験や資料館を見学。オープニングセレモニーでは、六原幼稚園児、RHYTHM TRAVELERZによるダンスが披露されました。特別企画として2頭のポニー乗馬体験も行われ、子どもたちは大きな馬を間近に見ながら、楽しそうに声を上げています。ボアコート姿で参加した千葉未来（みらい）くん（下平沢）は、「少し怖かったけど、また乗りたい」と話し、初めての乗馬体験を楽しみました。

軍馬の郷では初となるチャグチャグ馬コの15歳の馬「嵐」も登場。競走馬として数々の賞を受賞した経歴を持つ「嵐」は体格も良く迫力満点。今回が初めての参加となりましたが、来場者からは「大きくてかっこいい」「また会いたい」と人気を集めました。

同日には二日町公民館で北部まつり文化展も開催され、来場者は芸術の秋を満喫。

軍馬の郷周辺では、11月中旬から下旬にかけて、いろはもみじが見頃を迎えます。歴史ある建物と色鮮やかな紅葉を楽しめる季節に、ぜひ軍馬の郷を訪れてみてはいかがでしょうか。





いろいろな人に来てもらえる施設になればうれしい



軍馬の郷六原資料館
運営協議会会長
石母田　恒雄（つねお）さん

軍馬の郷には、普段から県外から訪れる人も多く、施設の特徴や歴史に関心を寄せる来場者が増えています。建物は、雨に強い特殊な構造となっており、上下に開く窓や漢数字の「六」をかたどった換気口など、当時の建築の工夫も見どころの一つです。開館5周年記念祭以来のイベントとなり、これを機にさらに県内外問わずいろいろな人が来てくれる施設になれば嬉しいですね。

郷土芸能発表大会



第44回金ケ崎町郷土芸能発表大会（郷土芸能発表大会実行委員会）が10月25日、中央生涯教育センターで行われました。招待団体の奥州市の江刺甚句踊り、一関市の牧澤（まきさわ）神楽を合わせ、10団体が華麗な演技を披露。来場者は一つ一つの繊細な動きに魅了され、自然と拍手喝采。町郷土芸能保存会の小野寺会長は「地域の伝統をつなぎ、歴史や風土を残すことは、大変であり大切なこと。地域に愛着を示し、これまでの想いを次に伝えていきたい」と話しました。



写真上＿三ケ尻座敷田植踊、写真中＿金ケ崎太鼓
写真下＿西根甚句踊

金ケ崎町国際交流協会コーナー

金ケ崎町西根南羽沢55　金ケ崎町中央生涯教育センター 団体交流室内
☎44-2099　Mail: kanegasaki.ifa@gmail.com　会員募集しています！

かねがさきDEハロウィン祭2026を開催

10月31日（土）、「かねがさきDEハロウィン祭2026」を開催しました。当日は、子どもたちや保護者、外国人講師、スタッフなど総勢90名が参加しました。外国人講師5名と一緒に英語を使ったゲームやハロウィンアクティビティを楽しんだほか、塗り絵や工作、小物づくり、フェイスペイント、仮装、お菓子のすくい取りなど、盛りだくさんの内容に、子どもたちは夢中になって取り組んでいました。外国の文化や英語に親しみながら、楽しく交流する一日となりました。

金ケ崎町国際交流協会（KIFA）では、これからも楽しみながら世界とつながる交流の機会をつくっていきます。

